

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 26 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20529001

研究課題名 (和文) 極東地域における靺鞨に関する考古学的研究

研究課題名 (英文) Archaeological Research on the Mohe Tribes in the Far East

研究代表者

木山 克彦 (KIYAMA KATSUHIKO)

北海道大学・スラブ研究センター・博士研究員

研究者番号：20507248

研究分野：北東アジア考古学

科研費の分科・細目：考古学・アジア考古学

キーワード：北東アジア考古学、靺鞨、初期鉄器時代、地域間交渉、土器研究

1. 研究計画の概要

本研究では、6 世紀後半に前代からいた諸集団を統合し、ロシア極東・中国東北部全域に住地を広げた「靺鞨」族の様相とその成立過程について考古学的に解明しようとするものである。靺鞨族の成立時には、同族が使用したとされる「靺鞨罐」と呼称される土器が極東全域に齊一的に広まる。本研究では、この靺鞨罐と靺鞨罐成立以前（初期鉄器時代）の土器資料を分析対象として、各地域における在地土器の製作伝統がどのような変遷を辿り、靺鞨罐が形成されるに至ったか、そして地域毎の靺鞨罐の分析を通じて広域に渡る当時の地域間関係を検討することを目的とする。またこの作業を通じて極東地域の当該期の広域編年の確立を目指す。

2. 研究の進捗状況

本研究では、極東各地域の土器群を通時的に分析することにより、系統性と地域性を把握し、地域間関係の描出を試みる。分析対象資料の多くは、海外の研究機関に収蔵されており、詳細な分析を行う為、実地調査を行う必要がある。

平成 23 年度までの研究活動で、当初の研究計画に挙げた研究機関（ロシア科学アカデミー極東支部、同シベリア支部、ハバロフスク州立博物館、中国黒龍江省文物考古研究所、黒龍省博物館、吉林省文物考古研究所、吉林省博物館、吉林市博物館、遼寧省文物考古研究所、遼寧省博物館）及び分析対象資料（各地の靺鞨罐及び前代の初期鉄器時代資料）については、ほぼ全て実見することができた。

本研究の分析は、以下の通りで進めている。上記の地域の資料は膨大にある為、文化・地域毎に良好な資料の纏まりのある遺跡を選定する。そして施文技術を含む文様や成形技

法、胎土の製作を含む器形等の諸属性を観察し、各文化・地域の土器群がどのように構成されているのかを明らかにする。

靺鞨罐成立前・靺鞨罐成立期の両期で同様の分析を行い、各地域での土器の変遷過程と土器製作技術の系統関係を把握する。

地域間で技術伝統を比較し、結果、得られた地域間の共通性と差異を土器製作技術における情報伝播の多寡を反映したものと見做し、地域間関係とその背景について考察する。

以上の内、各地域の靺鞨罐成立前、靺鞨罐成立期については、随時作業を進めてきた。その結果についても、随時論文、発表で公開してきた。但し、対象が膨大な為、分析が途中である部分、分析結果の整理・取り纏めも途中である部分も残されている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

上記の通り、計画当初予定した分析対象資料のほぼ全て実見することができている。またその成果についてもコンスタントに発表しており、進展は順調といえる。しかし、分析資料の蓄積に対し、分析と結果の取り纏め、その後の公開が若干遅れている側面もある。

4. 今後の研究の推進方策

上記の通り、分析作業や結果の取り纏めが、終了していない部分がある。

その為、今年度以降も継続的な現地での調査を実施する。分析を継続しながら、個別に成果公表に努める。また本研究終了に向けて、個別成果を総合化し、当該期の交渉関係の様相についての考察を進める作業を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

木山克彦「渤海土器の展開と周辺地域」『考古学ジャーナル』2010年10月号No.605、18～21頁、ニューサイエンス社(2010.10) 査読無し

木山克彦「菊池俊彦著;オホーツクの古代史」『古代文化』第62巻1号、148～150頁、古代学協会(2010.6) 査読有り

木山克彦「靺鞨成立に関する考古学的研究—ロシア沿海州ビギン川流域の調査を中心に—」『高梨学術奨励基金年報 平成20年度研究成果概要報告』14～17頁、財団法人高梨学術奨励基金(2009.11) 査読無し

木山克彦訳 ヴァシレフスキーA.A.、グリシエンコV.A.、フェドルチュクV.D.、モジャエフA.V.「2003～2007年におけるサハリン国立大学による考古学調査」『北海道考古学』第45輯 45～58頁、北海道考古学会(2009.3) 査読有り

〔学会発表〕(計5件)

木山克彦・臼杵勲・Yu.G.ニキーチン・N.N.クラージン「ロシア沿海地方エリザベトフカ1遺跡・ロシーナ6遺跡の調査」『第12回北アジア遺跡調査報告会』63～65頁、北アジア遺跡調査報告会実行委員会編 於 札幌学院大学(2011.3.6)

木山克彦「紀元前後～7世紀代における極東・サハリン・北海道北部の考古学的様相」『「新しいアイヌ史構築」第1回小シンポジウム(先史編)』(於 北海道大学アイヌ・先住民センター 2010.9.3)

Кияма Кацухико Программные туры как популярный вид научных исследований в регионах Восточной Азии. АКТУАЛЬНЫЕ ПРОБЛЕМЫ СОЦИАЛЬНОЙ КОММУНИКАЦИИ. Материалы первой международной научно — практической конференции. С.10-13. Нижегородский государственный технический университет им Р. Е. Алексеева. Нижний Новгород. Россия. 2010.5.22 (紙上報告のみ)

〔図書〕(計5件)

木山克彦「靺鞨・渤海・女真の考古学」『アジア遊学 No.139 特集・アイヌ史を問いなおす 生態・交流・文化継承』138～147頁、勉誠出版(2011.3)

木山克彦「靺鞨罐」の成立について」『北東アジアの歴史と文化』165～189頁、北海道大学出版会(2010.12)

木山克彦「パグラニーチノエ城址」、「マイスコエ城址」、「アナニエフカ城址」、「ゴルノフトル城址」、「ステクリャヌーハ城址」、「スモリャニノフスコエ城址」、「ノヴォネジンスコエ城址」、「アヌチノ城址」、「シクリャエフスコエ城址」、「シャイガ城址」、「ニコラエフカ城址」、「エカテリノフカ城址」、「ラゾ城址」、「マリャノフカ城址」、「ユルコフスコエ城

址」『北東アジア中世城郭集成 I ロシア沿海地方:金・東夏1』11頁、17頁、33頁、37、38頁、41頁、43、44頁、47、48頁、49、50頁、52頁、59、60頁、64、65頁、68頁、73、74頁、76頁、78、79頁、札幌学院大学総合研究所(2010.4)

木山克彦「パクロフカ文化における陶質土器の展開」『中世東アジアの周縁世界』29～43頁、同成社(2009.11)

木山克彦「極東の土器終焉」『中世東アジアの周縁世界』108～111頁、同成社(2009.11)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

博物館展示

『測る、知る、伝える—平城京と文化財—』展 平城宮跡資料館 2010, 11.26～2011, 1.16 (「3. 文化財を測る、知る、伝える、の最前線」コーナー内「北東アジア城郭測量調査」パネル出品。)